

(様式4)

令和元年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立泊小学校

校長名 山 本 洋 介 印

1 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

- 1時間単位で本時のねらいを達成できる授業づくりを推進する。
- 単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実を図る。
- ペア学習やグループ学習や情報機器の効果的な活用方法を工夫する。
- 少人数指導を生かし、個別指導の充実を図る。
- 校内授業研究会を充実し、学校全体での授業力の向上を図る。
- 外国語活動・外国語を推進し、外国語への興味・関心を高める指導に取り組む。
(外国語活動・外国語授業研修の推進)
- 「家庭学習の手引き」や「家庭学習がんばりカード」を活用しながら、家庭学習の習慣化を図るとともに、自主学習につながる家庭学習へとつなげる。
- 図書館利用の推進を図り、読書の習慣化を進めるとともに、授業の単位に関する図書の活用の充実を図る。

(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成

- 全校集会(あったか集会、しおかぜ集会等)の取組、縦割り班活動をより充実させる。
- 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、思いやり豊かな心を育成する。
(道徳科の授業研修の推進、M I M指導の推進)
- より良い言葉遣いのあり方については重点的に指導する。
- 潮風タイム(業間運動)を活用し、学校全体としての意識の向上を図り、学校全体の体力向上を図っていく。
- 食育指導を行い、健康な体づくりに関心をもたせるとともに、児童の基本的な生活習慣に関する意識の向上を図る。

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

- 計画に基づく総合的な学習の推進を図る。
- 特色のある教育活動とふるさと学習の充実を図りながら推進するとともに、招待給食、しおかぜカフェの取組の充実を図る。
- 学校だより、学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に発信する。
- ホームページを活用し、旬な情報を発信する。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
わかる授業の創造と 確かな学力の育成	B	(成果) ・授業研究会をポイントを確認しながら進めることで、校内の学習スタイルにばらつきがなくなった。 ・国語科の「書くこと」を研究することで、「国語好き」「書く活動を楽しみしている」児童が増えている。 ・ペア学習・グループ学習等の話し合い活動により、自分の考えを持てたり、自分の考えを深めたりすることにつながり始めている。 (課題) ・家での学習習慣・自主学習の充実を図りたい。 ・電子黒板やタブレットの効果的な活用方法の学んでいかななくてはいけない。
潮風の中でたくましく 生きる心と体の育成	B	(成果) ・体力づくりの面では、継続的に一定の成果が見られている。(大なわ大会、水泳、陸上等) ・あったか集会、縦割り班活動・あったか言葉の推進により、関わり合いの中でいい面が出ている。 (課題) ・学校から離れた場面、子ども同士の場面での言葉遣い、「～さん」付けへの指導を継続させたい。 ・生活習慣の見直し(特にゲーム使用)の指導を保護者の協力を得ながら、徹底していきたい。
ふるさとに誇りを思 う児童の育成と開か れた学校づくり	B A (学 校運 営評 議員 会で 修正へ)	(成果) ・ホームページを毎日更新し、情報発信することができた。 ・地域の方の協力により、グラウンド・ゴルフや泊貝がら節だけでなく、生活科・総合的な学習の時間における校外学習・体験学習が充実してきている。 ・招待給食・しおかぜカフェの取組を通して、地域の方やボランティアの方への感謝の気持ちを表すことができた。(特に、しおかぜカフェの取組が充実している。) (課題) ・さらに、学校と地域・保護者との双方向の関係の取組となるよう挨拶等を含め、児童・教職員が、地域の方・ボランティアの方への感謝の気持ちを表していけるようにしていきたい。 ・総合的な学習の時間を計画的に外部人材を活用しながらさらに充実させていきたい。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	「わかる授業の創造と確かな学力の育成」「潮風の中でたくましく生きる心と体の育成」「ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり」の3点を重点目標に掲げ取り組んできた。研究を進める中で、校内の学習スタイルにばらつきがなくなったり、その学習の実感を児童・保護者がアンケートの中で回答したりしている。また、体力面の学校全体の向上が感じられたり、ふるさと学習を進めながら、学校と地域・保護者との双方向の関係の取組が充実したりもしてきている。 しかし、児童の特性・実態に応じた個別の学習の充実や児童の学校を離れた場面での言葉遣い、児童の生活習慣等には課題がある。この課題の部分を学校全体で共通理解しながら丁寧に進め、より多くの学校全体としての成果を挙げていけるようにしていきたいと考える。

◎「3・4」の評価の表示方法

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取組が不十分である

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 わかる授業の創造と確かな学力の育成	○家庭学習の定着、家庭学習の質の向上が図れている児童は多くいるが、指導がなかなか届かない児童もいる。子どもとメディアとの関係や個別の家庭学習の取り組み方を踏まえながら課題解決を進めていきたい。 ○本年度の国語科の研究に積み上げをし、学校全体で共通理解した学習を継続して進め、実感の持てる児童・保護者がさらに増えるような取組を進めていきたい。 ○本格実施となった道徳科の授業、本格実施となる外国語活動・外国語の授業が充実していけるよう授業研究を進めていきたい。
2 潮風の中でたくましい心と体の育成	○M I M指導等を通して、一人ひとりの児童の特性・実態を把握し、学習や個別指導・支援を行ってきたい。 ○あったか言葉への取組が、校内での広がりだけでなく、学校から離れた場面や子ども同士の場面でも広がっていくよう取組を充実させていきたい。 ○基本的生活習慣の生活を含めた家庭でのよりよい生活について、家庭と連携しながら充実した取組を行いたい。 ○体力面での全体的な底上げがなされてきているので、現在の取組の継続をしながら、課題の部分の取組を学校全体で進めていきたい。
3 ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり	○子どもたちのよい面や頑張っている面を多く地域・保護者に伝えられるようにしていきたい。 ○外部人材を計画的に活用しながら、校外学習・体験学習のさらなる充実を図ってきたい。